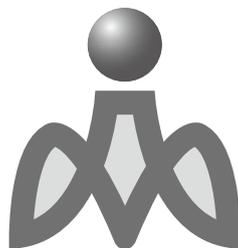


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔平成27年7月～9月実績〕
〔平成27年10月～12月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調査要領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景況概観	3
(2) 主な項目で見る業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景況概観	6
(2) 主な項目で見る業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景況概観	9
(2) 主な項目で見る業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景況概観	12
(2) 主な項目で見る業況	12

【I】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 165企業 (3) 回答企業数 165企業

2. 調査対象期間

第2四半期 平成27年7月～9月期 「調査時点：平成27年9月1日」

3. 調 査 方 法

県下の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービス業	計
都 留 市	3	2	3	4	12
山 梨 市	1	2	2	3	8
大 月 市	2	1	3	2	8
韭 崎 市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
甲 斐 市	4	3	5	2	14
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	2	1	2	2	7
甲 州 市	3	1	2	3	9
中 央 市	2	1	2	1	6
市川三郷町	2	1	1	2	6
身 延 町	1	1	2	2	6
南 部 町	1	0	1	1	3
富 士 川 町	1	1	1	2	5
昭 和 町	1	1	3	3	8
西 桂 町	0	0	1	1	2
南都留中部	1	1	2	2	6
河 口 湖	1	1	6	5	13
計	37	25	50	53	165

5. そ の 他

①本報告書のD Iとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

②次頁【II】1. 産業全体の業況概観・・・については、商工会調査企業ばかりでなく、他の本県経済団体調査企業（卸売業を含む）を含んだ285サンプルによるものである。

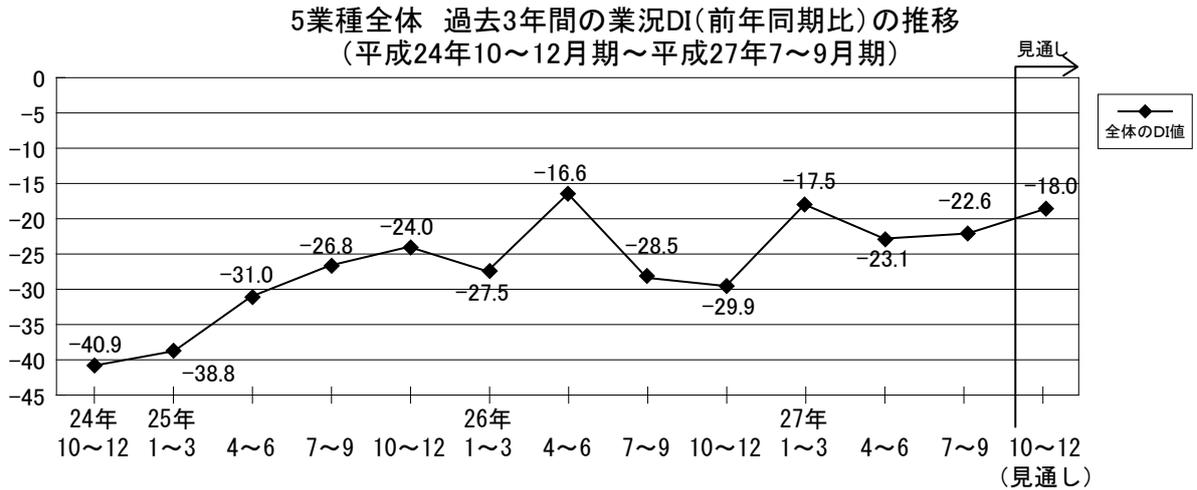
【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

本県における5業種全体の業況判断DI、及び、産業別の業況判断DIについてみる。

まず、前年同期比でみた過去3年間の5業種全体の業況判断DIである。今期の業況判断DIは、▲22.6と前期比で0.5ポイント悪化している。

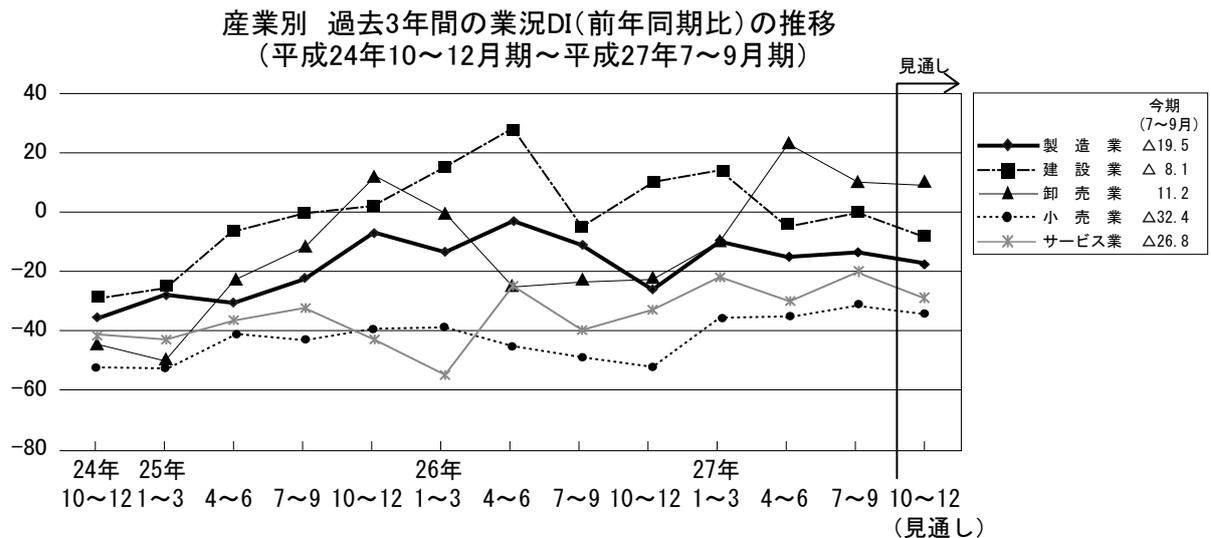
一方、来期については、▲18.0と改善の見通しである。



次に、前年同期比でみた過去3年間の産業別の業況判断DIである。

小売業が▲32.4と前期比で3.7ポイント、サービス業が▲26.8と前期比で3.7ポイント改善している。一方、製造業が▲19.5と前期比で2.1ポイント、建設業が▲8.1と前期比で3.0ポイント、卸売業が11.2と前期比で11.1ポイント悪化している。

来期は、製造業、卸売業、サービス業が大幅に改善見通しである一方、建設業、小売業が悪化する見通しとなっている。



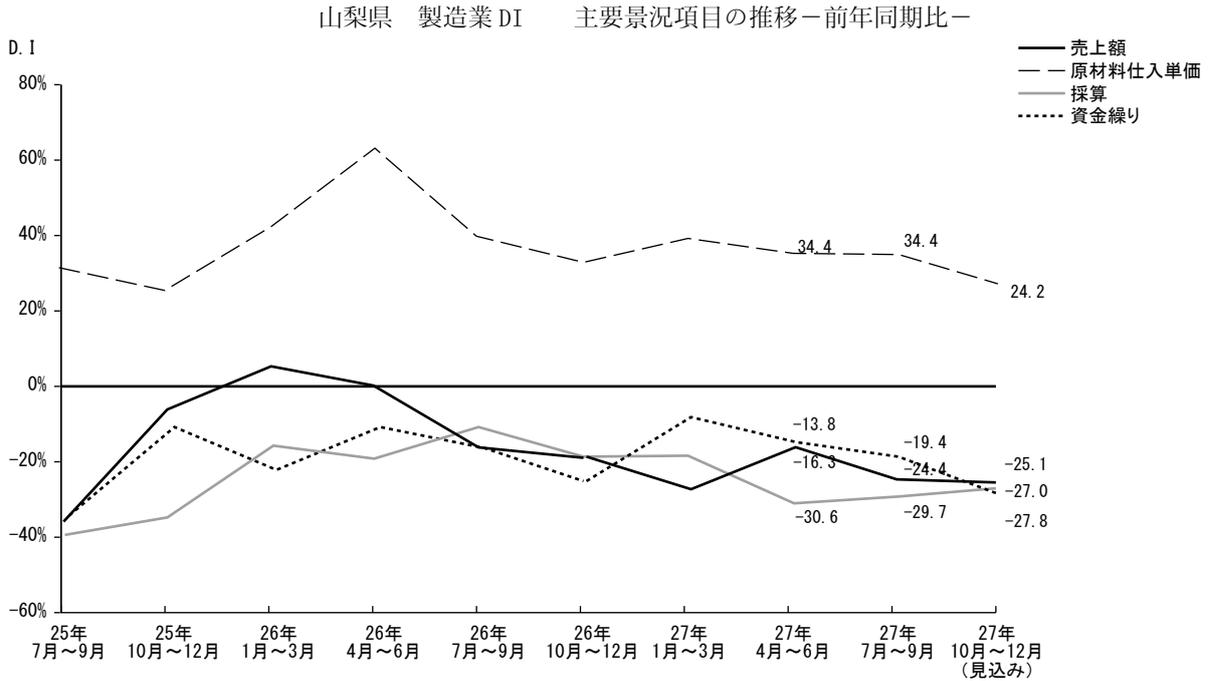
【注記】上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象165企業に甲府・富士吉田地域等からの121企業を含めた285サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況DIについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

2. 製造業の動向

(1) 景況概観

売上額DIについては、今期は▲24.4と前期比で8.1ポイント悪化している。来期は▲25.1と更に悪化する見通しとなっている。原料仕入単価DIは、今期は34.4と前期比で横ばいとなっている。来期は24.2と低下(改善)する見通しとなっている。採算DIは、今期は▲29.7と前期比で0.9ポイント改善している。来期は▲27.0と更に改善する見通しとなっている。資金繰りDIは、今期は▲19.4と前期比で5.6ポイント悪化している。来期は▲27.8と更に悪化する見通しとなっている。

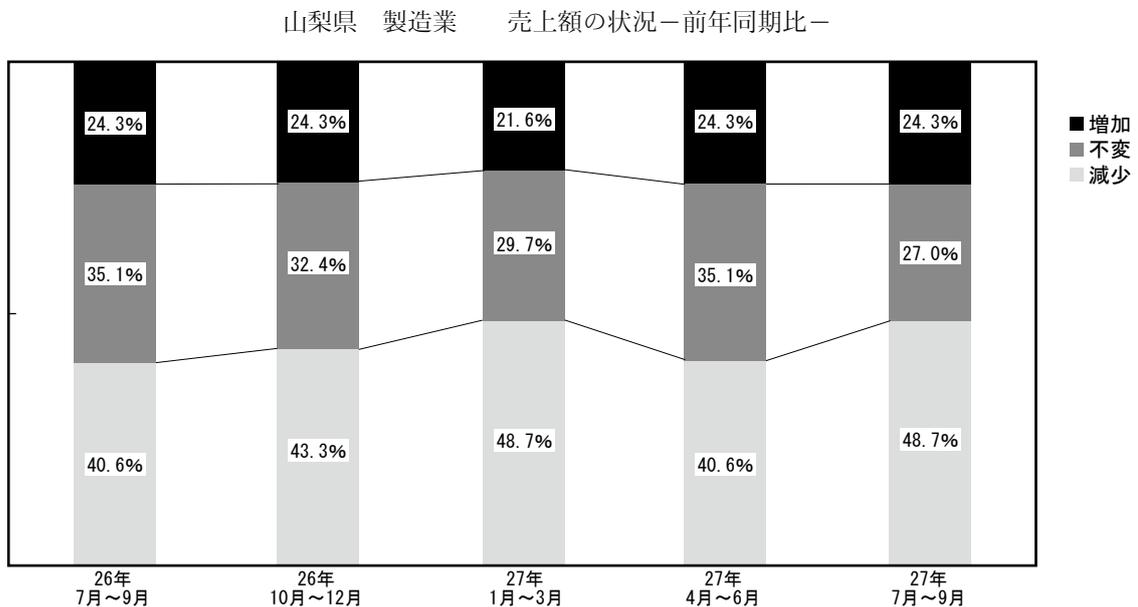
今期、来期とも、売上額DI、資金繰りDIが悪化傾向にある一方、原材料仕入単価DI、採算DIが改善傾向にある。



(2) 主な項目で見る業況

① 売上額 (売上額DIの内容 (回答企業数 37社))

「増加」と答えた企業の割合は、24.3% (9社) と横ばい、「不変」は27.0% (10社) と減少している (前期比 ▲3社)。「減少」は48.7% (18社) と増加 (+3社) している。



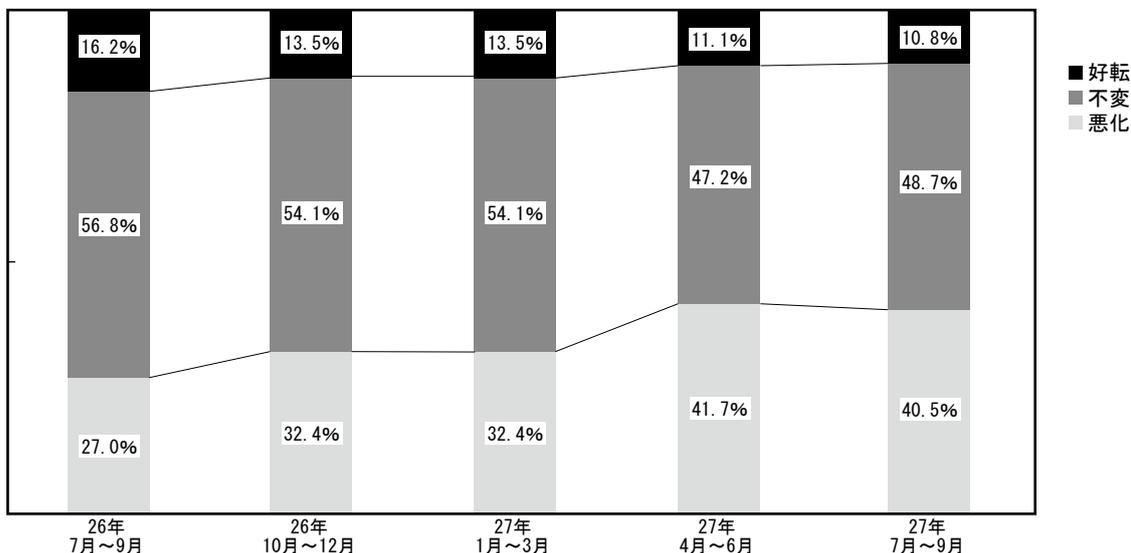
② 採算（採算DIの内容（回答企業数37社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、10.8%（4社）と減少している。

「不変」は48.7%（18社）と増加（前期比+1社）している。「悪化」は40.5%（15社）と減少している。

山梨県 製造業 採算の状況—前年同期比—



③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数37社））

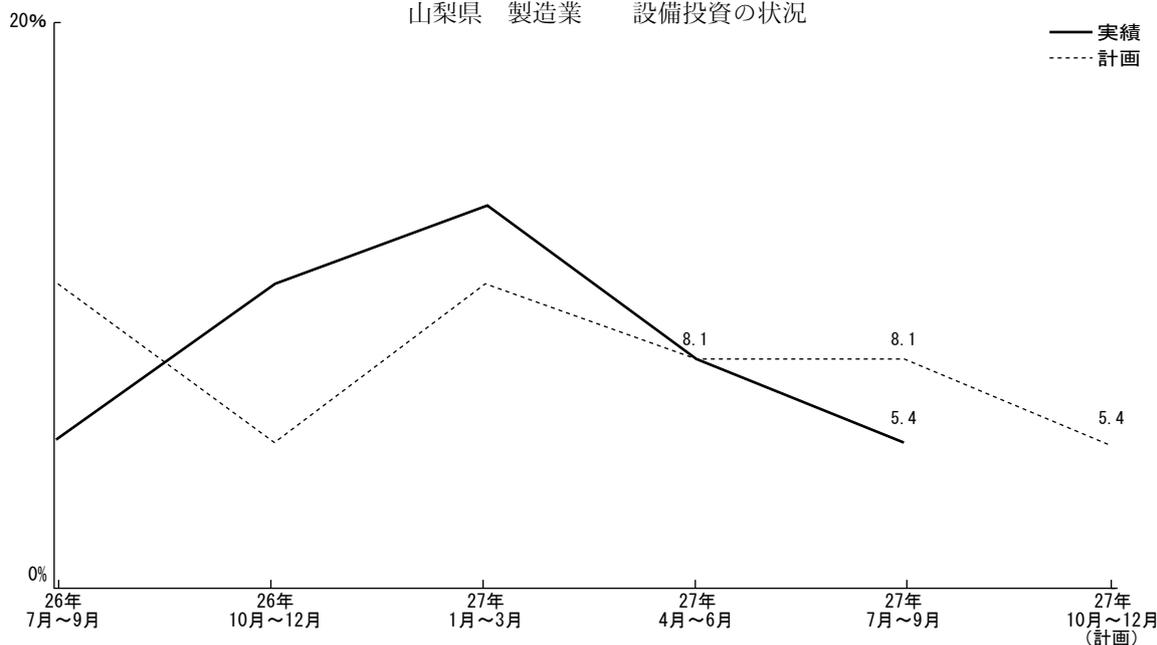
今期において、設備投資を行った企業の割合は5.4%（2社）であった（前期比 △2.7%）。

その設備投資の内容は、「生産設備」が2件であった。

来期の計画については、5.4%（2社）の企業が予定している。

その設備投資の内容は、「土地」、「工場建物」、「生産設備」、「OA機器」がそれぞれ1件ずつになる。

山梨県 製造業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数 32 社）

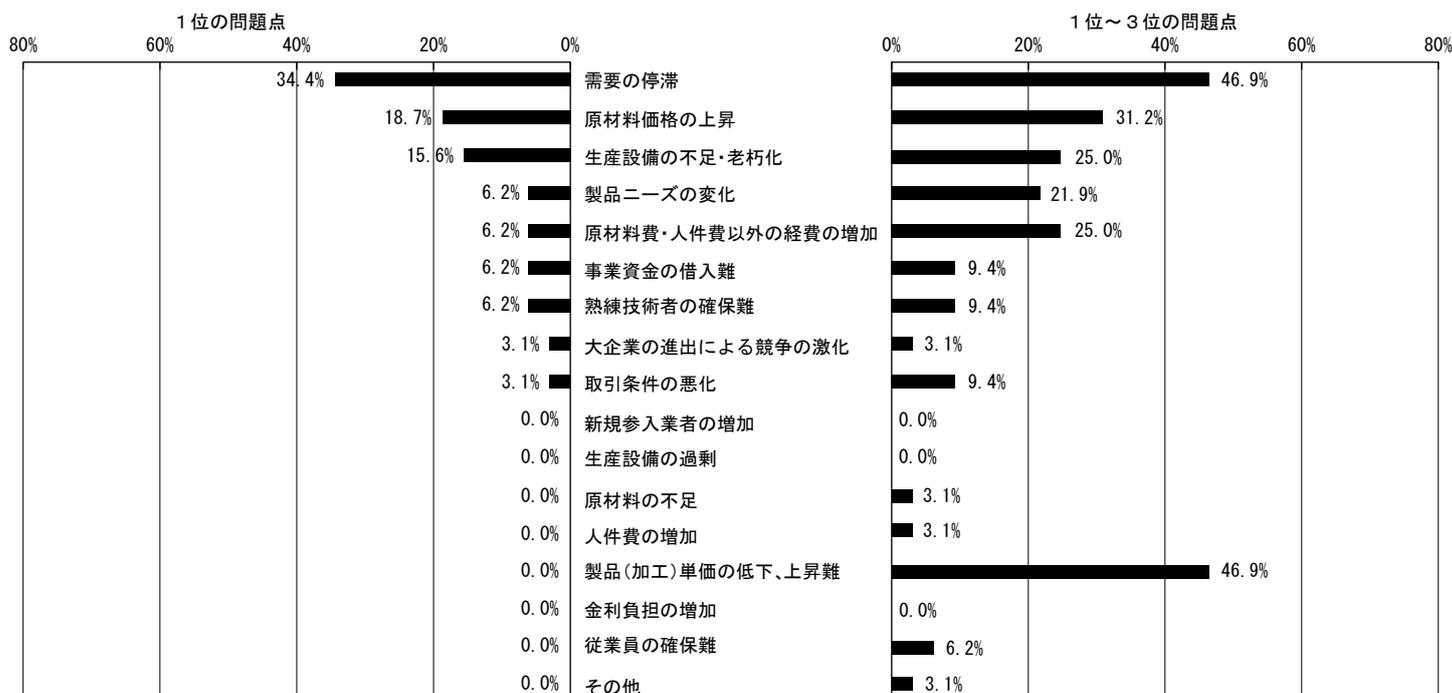
まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

1 番目に多かったのは、「需要の停滞」の 34.4%（11 社）であり、2 番目は、「原材料価格の上昇」の 18.7%（6 社）になる。さらに、「生産設備の不足・老朽化」の 15.6%（5 社）が続く。

次に、「1 位～3 位」に挙げられたものをみる。

1 番目に多かったのは、「需要の停滞」、「製品（加工）単価の低下、上昇難」の 46.9%（15 社）であり、そのあと、「原材料価格の上昇」の 31.2%（10 社）が続く。

山梨県 製造業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	5	14
飲料・飼料・たばこ製造業	1	3
衣服・その他繊維製品製造業	0	3
印刷・同関連業	2	5
化学工業	1	5
プラスチック製品製造業	4	11
金属製品製造業	2	5
一般機械器具製造業	13	32
電気機械器具製造業	2	5
輸送用機械器具製造業	1	3
その他製造業	6	14
合計	37	100

従業員規模別

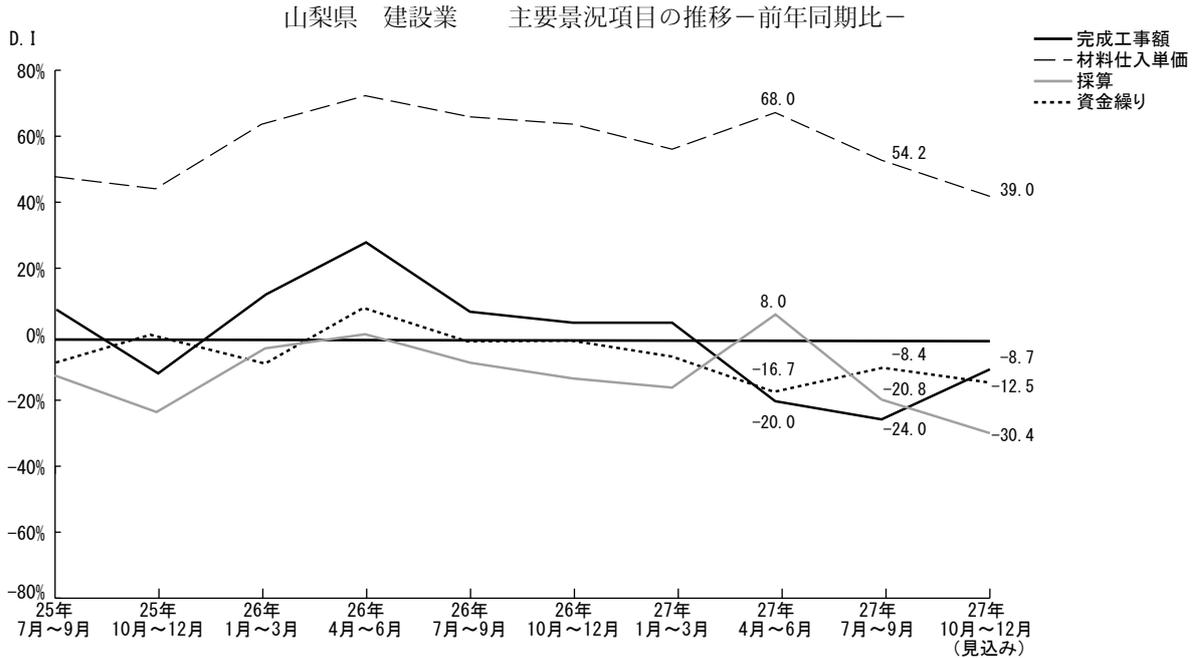
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	企業数	構成比(%)
2 人以下	24	62.2	20	51.4
3 人～5 人以下	5	16.2	5	13.5
6 人～10 人以下	4	10.8	7	21.6
11 人～20 人以下	4	10.8	5	13.5
合計	37	100	37	100

3. 建設業の動向

(1) 景況概観

完成工事額D Iについては、今期は▲24.0と前期比で4ポイント悪化している。一方、来期は▲8.7と大幅に改善する見通しとなっている。材料仕入単価D Iは、今期は54.2と前期比で13.8ポイント低下（改善）している。来期は39.1と更に低下（改善）する見通しとなっている。採算D Iは、今期は▲20.8と前期比で28.8ポイント悪化している。来期は、▲30.4と更に悪化する見通しとなっている。資金繰りD Iは、今期は▲8.4と前期比で8.3ポイント改善している。一方、来期は▲12.5と悪化する見通しとなっている。

今期は材料仕入単価D Iが低下（改善）する一方、採算D Iの悪化が目立つ。来期は、完成工事額D Iの大幅な改善、材料仕入単価D Iの更なる低下（改善）が見通されている。

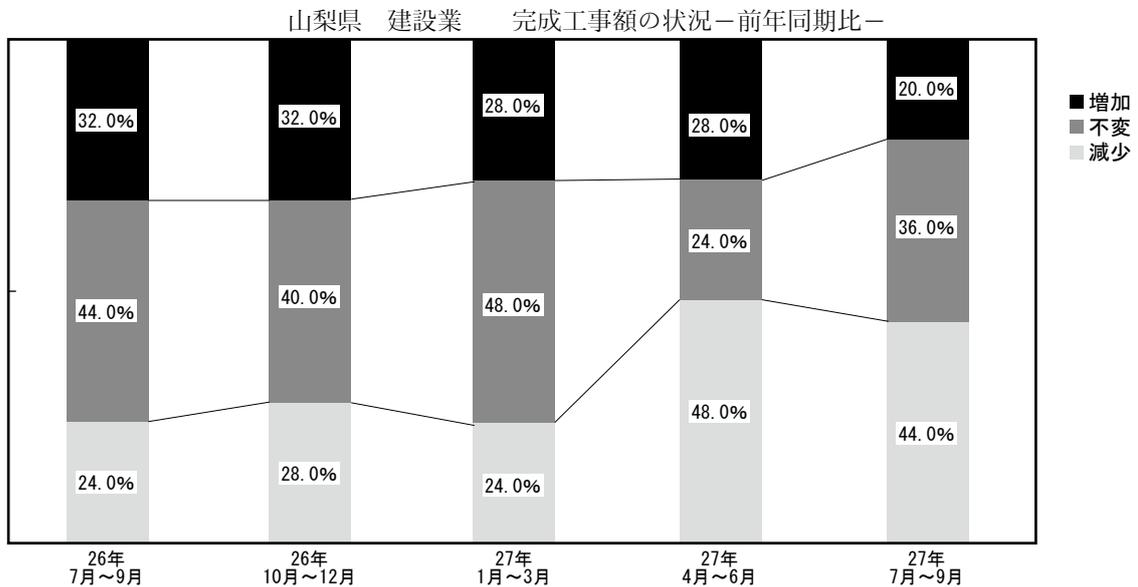


(2) 主な項目で見る業況

① 完成工事額（回答企業数 25 社）

「増加」と答えた企業の割合は、20.0%（5 社）と減少（前期比△2 社）している。

「不変」は 36.0%（9 社）と増加（前期比 + 3 社）し、「減少」は 44.0%（11 社）と減少（前期比△1 社）している。

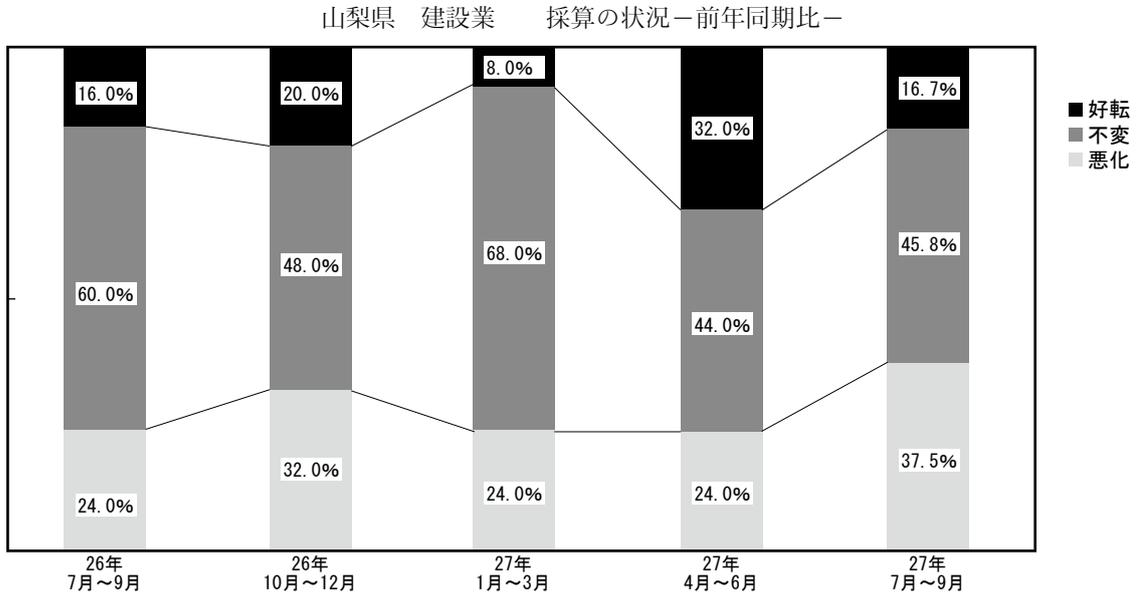


② 採算（採算DIの内容（回答企業数24社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、16.7%（4社）と減少（前期比 △4社）している。

一方、「不変」は45.8%（11社）と横ばい、「悪化」は37.5%（9社）と増加（前期比 +3社）している。



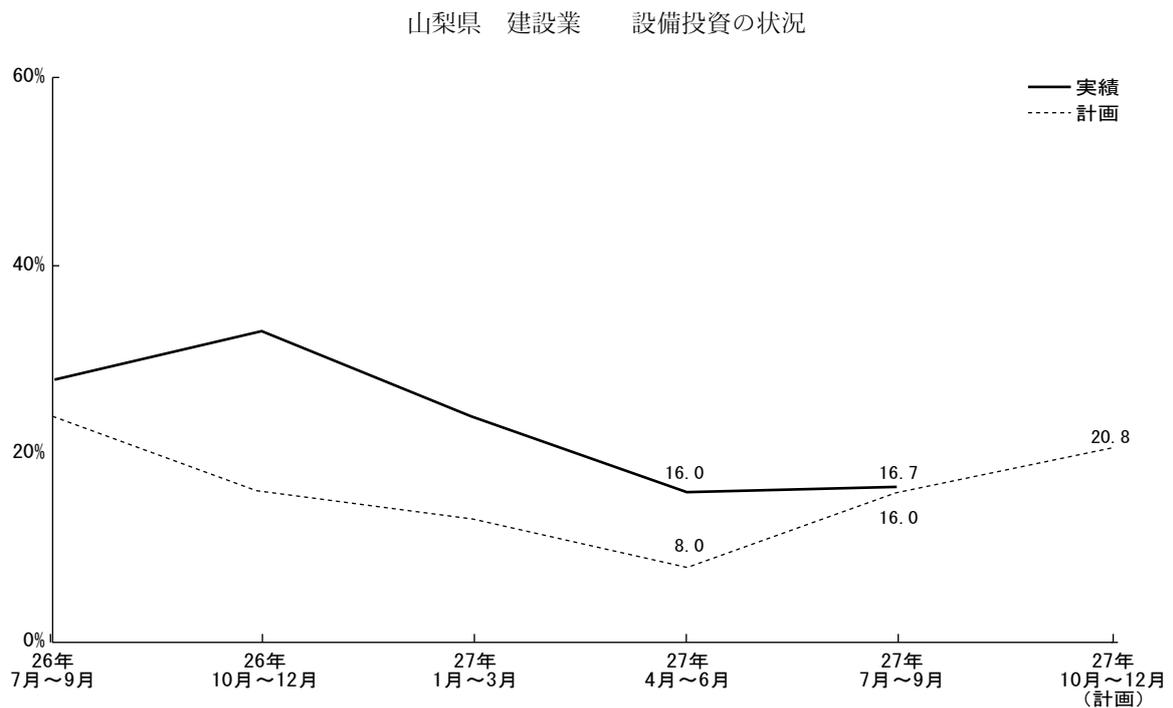
③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数25社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は16.7%（4社）であった（前期比 +0.7%）。

その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が2件、「建物」、「その他」が1件ずつであった。

来期の計画については、20.8%（5社）の企業が予定している。

その設備投資の内容は、「建設機械」が3件、「その他」が2件、「車両・運搬具」、「OA機器」がそれぞれ1件ずつになる。



④ 経営上の問題点（回答企業数 23 社）

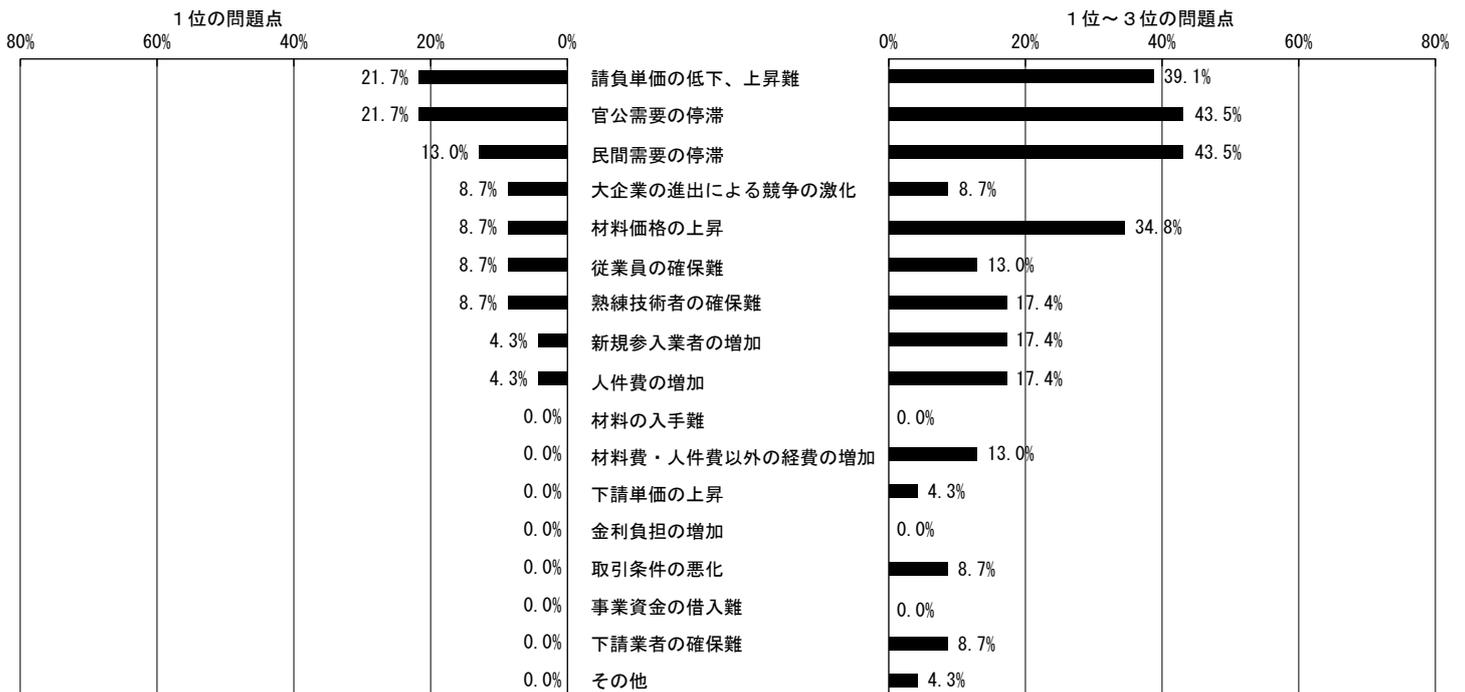
まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

1 番目に多かったのは、「請負単価の低下、上昇難」、「官公需要の停滞」の 21.7%（5 社）であり、そのあと、「民間需要の停滞」の 13.0%（3 社）が続く。

次に、「1 位～3 位」に挙げられたものをみる。

1 番目に多かったのは、「官公需要の停滞」、「民間需要の停滞」の 43.5%（10 社）であり、そのあと、「請負単価の低下、上昇難」の 39.1%（9 社）、「材料価格の上昇」の 34.8%（8 社）が続く。

山梨県 建設業 経営上の問題点の状況



(5) 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	18	72
職別工事業	4	16
設備工事業	3	12
合計	25	100

従業員規模別

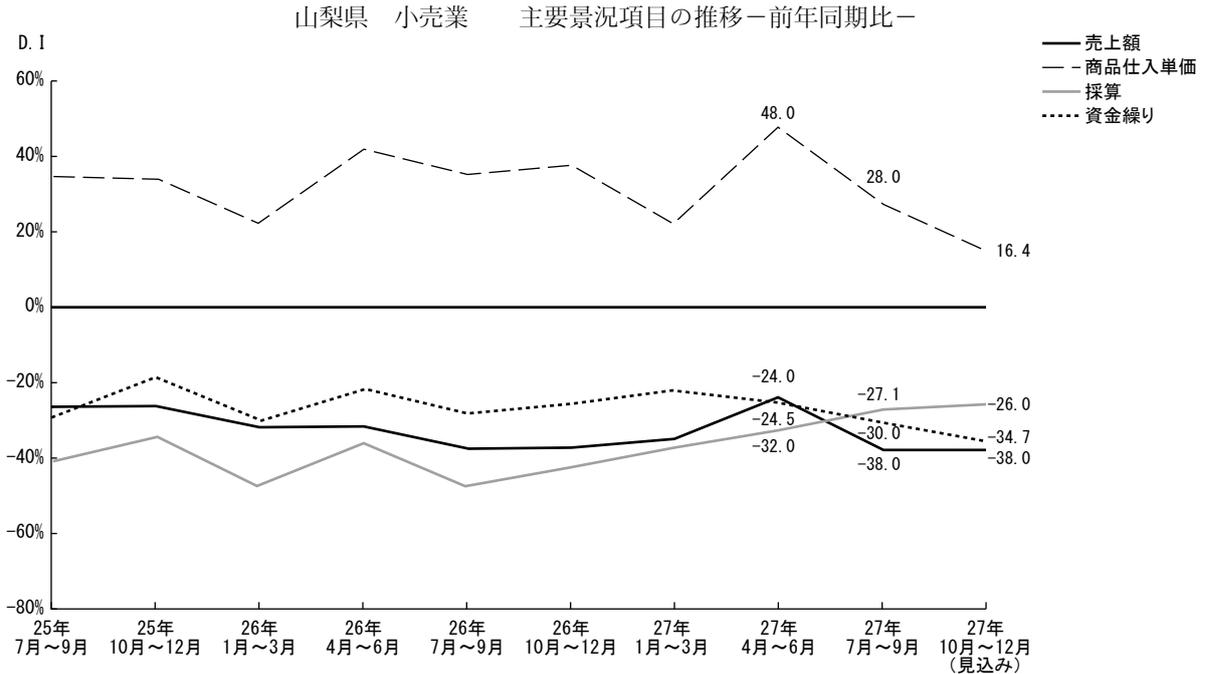
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇	い	企業数	構成比(%)
2 人以下	10	36.0	8	32.0
3 人～5 人以下	6	28.0	7	32.0
6 人～10 人以下	4	16.0	5	16.0
11 人～20 人以下	5	20.0	5	20.0
合計	25	100	25	100

4. 小売業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iについては、今期は▲38.0と前期比で14.0ポイント悪化している。一方、来期は▲38.0と横ばい見通しとなっている。商品仕入単価D Iは、今期は28.0と前期比で20.0ポイント低下(改善)している。来期は16.4と更に低下(改善)する見通しとなっている。採算D Iは、今期は▲27.1と前期比で4.9ポイント改善している。来期は▲26.0と更に改善する見通しとなっている。資金繰りD Iは、今期は▲30.0と前期比で5.5ポイント悪化している。来期は▲34.7と更に悪化する見通しとなっている。

今期、来期とも、資金繰りD Iが悪化傾向にある一方、原材料仕入単価D I、採算D Iが改善傾向にある。また、売上額D Iについても、下げ止まり見通しとなっている。

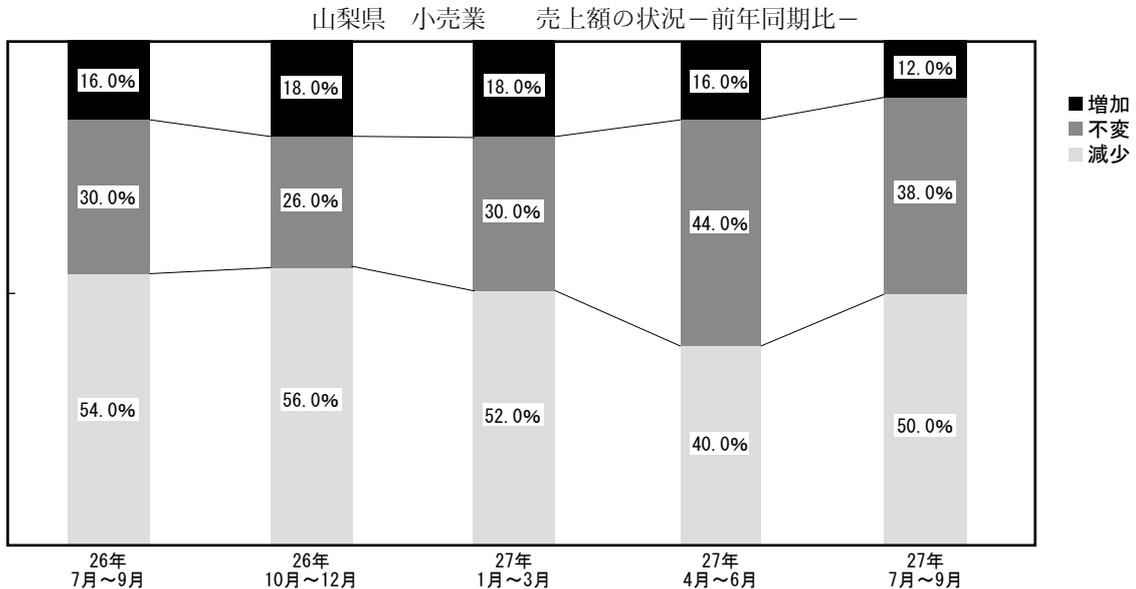


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額 (回答企業数 50 社)

「増加」と答えた企業の割合は、12.0% (6 社) と減少 (前期比 ▲2 社) している。

「不変」は 38.0% (19 社) と減少 (前期比 ▲3 社) し、「減少」は 50.0% (25 社) と増加 (同 + 5 社) している。

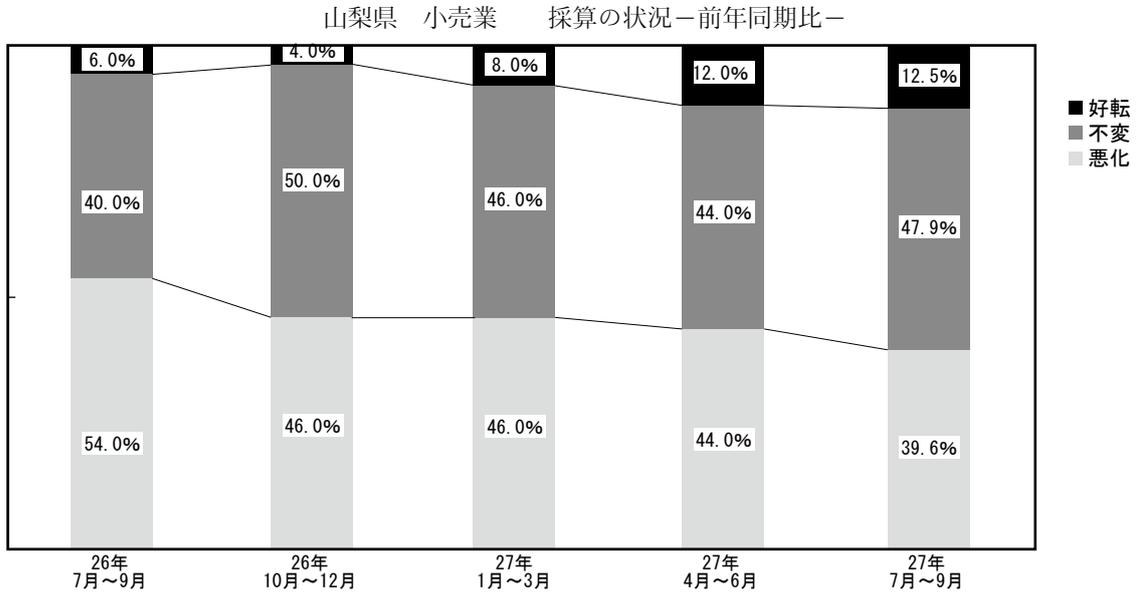


② 採 算（採算 DI の内容（回答企業数 48 社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、12.5%（6 社）と横ばいとなっている。

一方、「不変」は 47.9%（23 社）と増加（前期比 +1 社）し、「悪化」については、39.6%（19 社）と減少（前期比 ▲3 社）している。



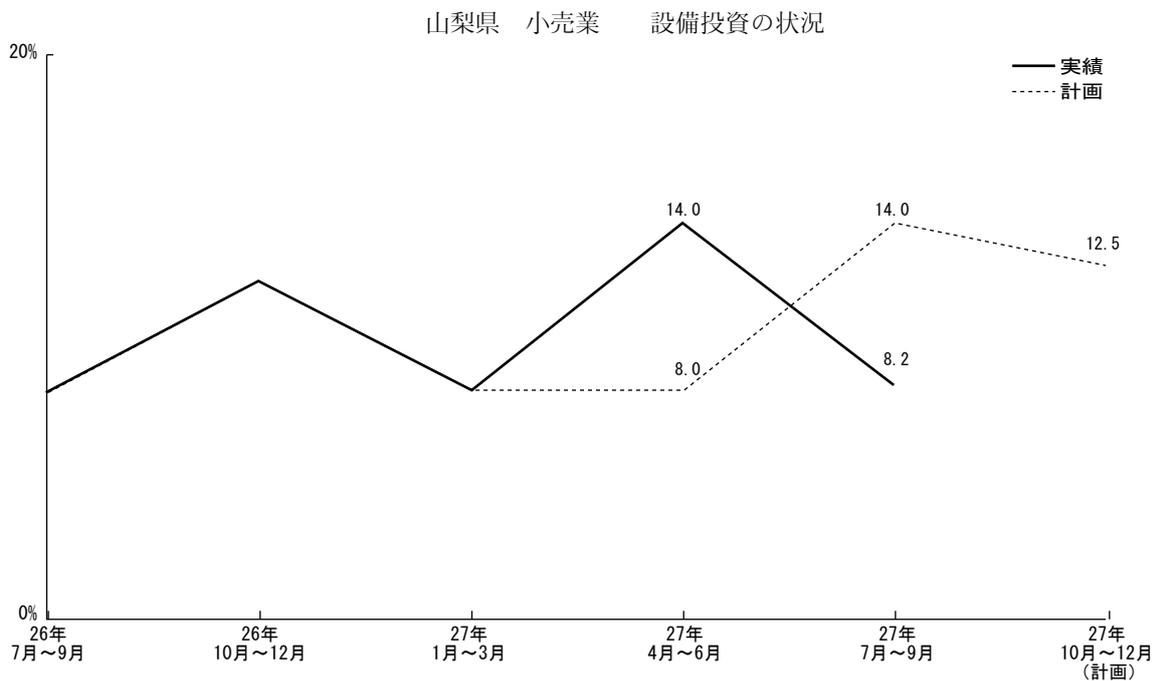
③ 設備投資（直近 1 年間における設備投資の状況（回答企業数 50 社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は 8.2%（4 社）であった（前期比 ▲5.8%）。

その設備投資の内容は、「販売設備」が 2 件、「店舗」、「車両運搬具」、「OA 機器」がそれぞれ 1 件であった。

来期の計画については、12.5%（6 社）の企業が予定している。

その設備投資の内容は、「その他」が 3 件、「車両運搬具」、「付帯施設」、がそれぞれ 2 件、「店舗」、「OA 機器」がそれぞれ 1 件ずつになる。



④ 経営上の問題点（回答企業数 48 社）

まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

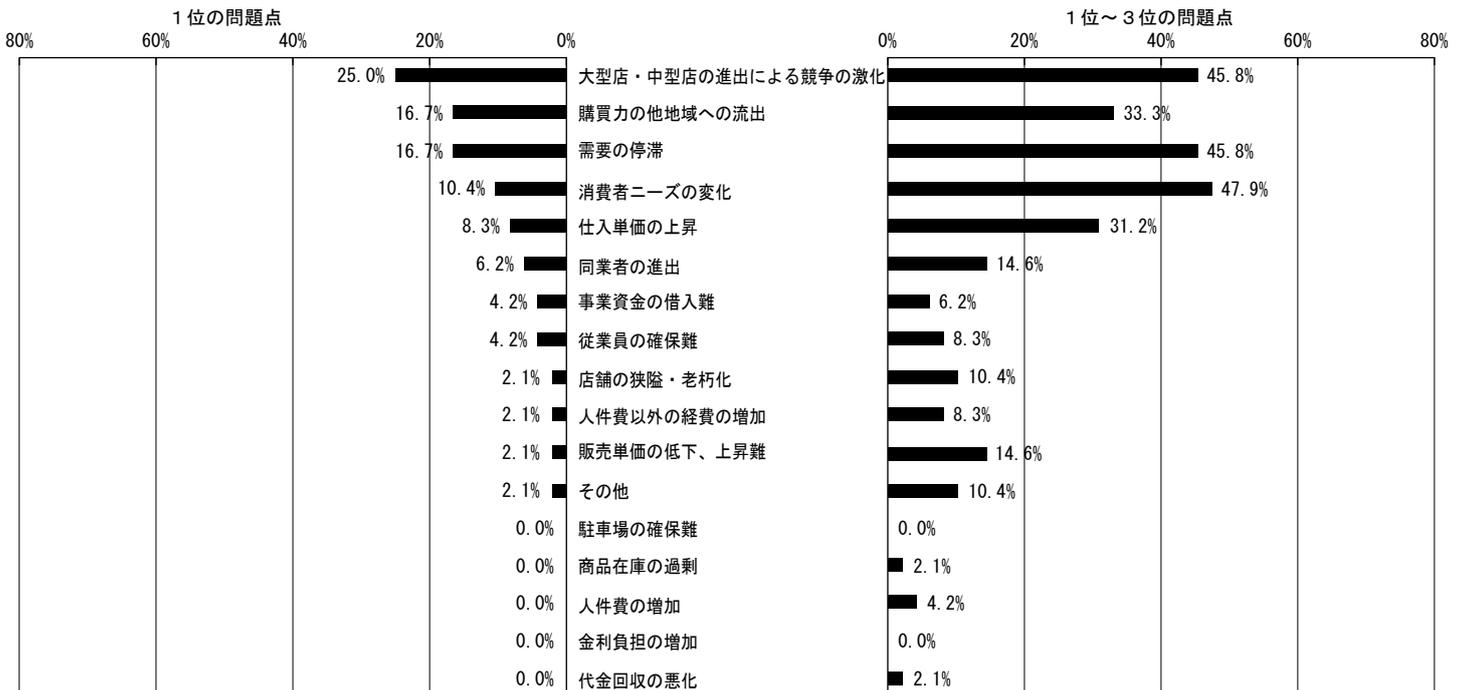
1番目に多かったのは「大型店・中型店の進出による競争の激化」の25.0%（12社）であり、次に多かったのは、「購買力の他地域への流出」、「需要の停滞」の16.7%（8社）であった。そのあと、「消費者ニーズの変化」の10.4%（5社）、「仕入単価の上昇」の8.3%（4社）が続く。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「消費者ニーズの変化」の47.9%（23社）であり、次に多かったのは「大型店・中型店の進出による競争の激化」、「需要の停滞」の45.8%（22社）であった。

そのあと、「購買力の他地域への流出」の33.3%（16社）、「仕入単価の上昇」の31.2%（15社）が続く。

山梨県 小売業 経営上の問題点の状況



(5) 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
各種商品小売業	0	0
織物・衣服・身の回り品小売業	12	22
飲食物品小売業	16	36
自動車・自転車小売業	2	6
家具・建具・じゅう器小売業	4	10
その他小売業	16	26
合計	50	100

従業員規模別

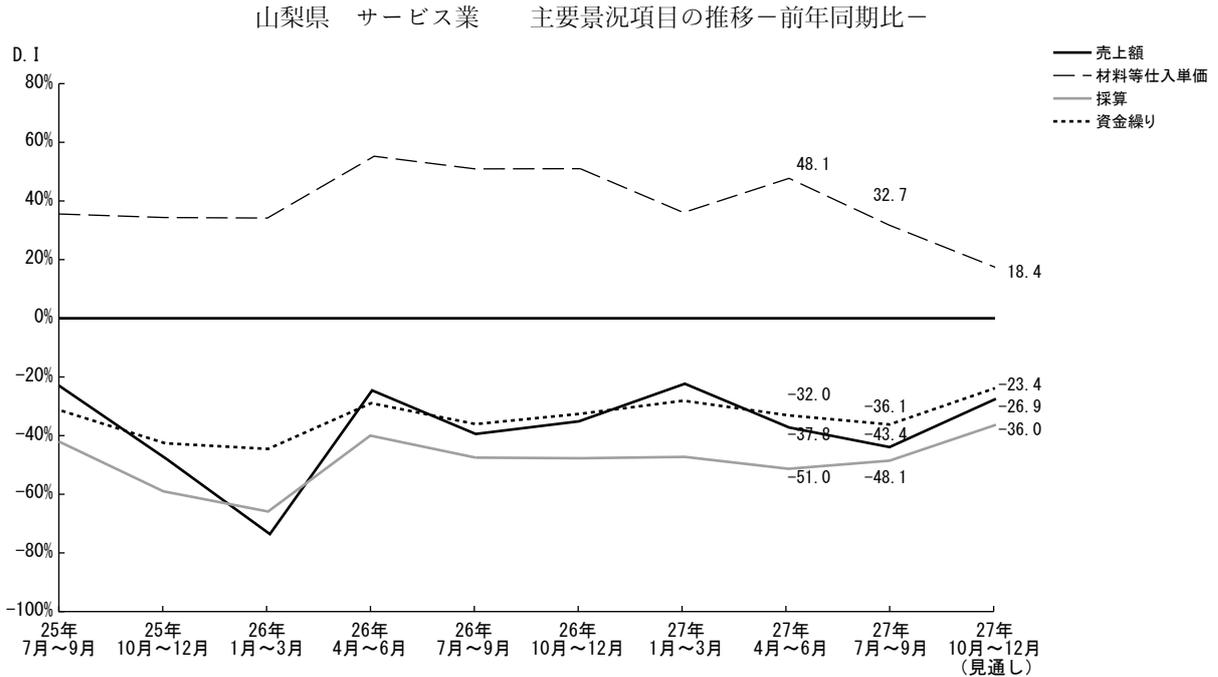
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2人以下	46	90.0	40	80.0
3人～5人以下	4	10.0	10	20.0
6人～10人以下	0	0.0	0	0.0
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	50	100	50	100

5. サービス業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iについては、今期は▲43.4と前期比で5.6ポイント悪化している。一方、来期は▲26.9と改善する見通しとなっている。材料仕入単価D Iは、今期は32.7と前期比で、15.4ポイント低下（改善）している。来期は、18.4と更に低下（改善）する見通しとなっている。採算D Iは、今期は▲48.1と前期比で2.9ポイント改善している。一方、来期は▲36.0と更に改善する見通しとなっている。資金繰りD Iは、今期は▲36.1と前期比で▲4.1ポイント悪化している。一方、来期は▲23.4と改善する見通しとなっている。

今期は売上額D I、資金繰りD Iが悪化しているものの、来期は、全てのD Iが改善する見通しとなっている。

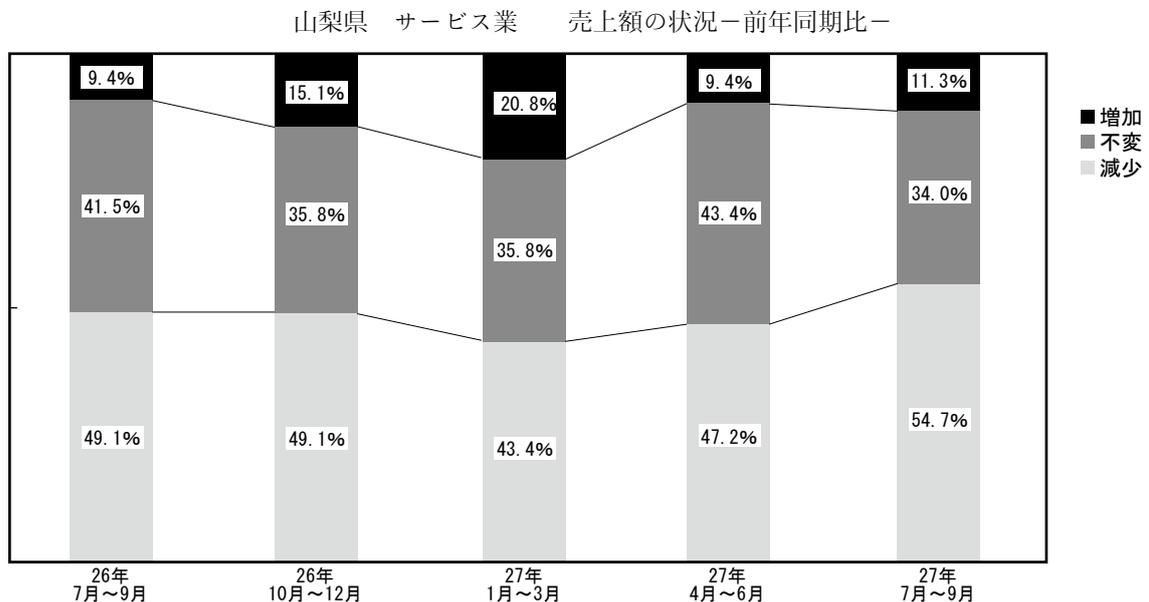


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（回答企業数 53 社）

「増加」と答えた企業の割合は、11.3%（6社）と増加（前期比 +1社）している。

一方、「不変」は34.0%（18社）と減少（前期比 ▲5社）し、「減少」については54.7%（29社）と増加（前期比 +4社）している。

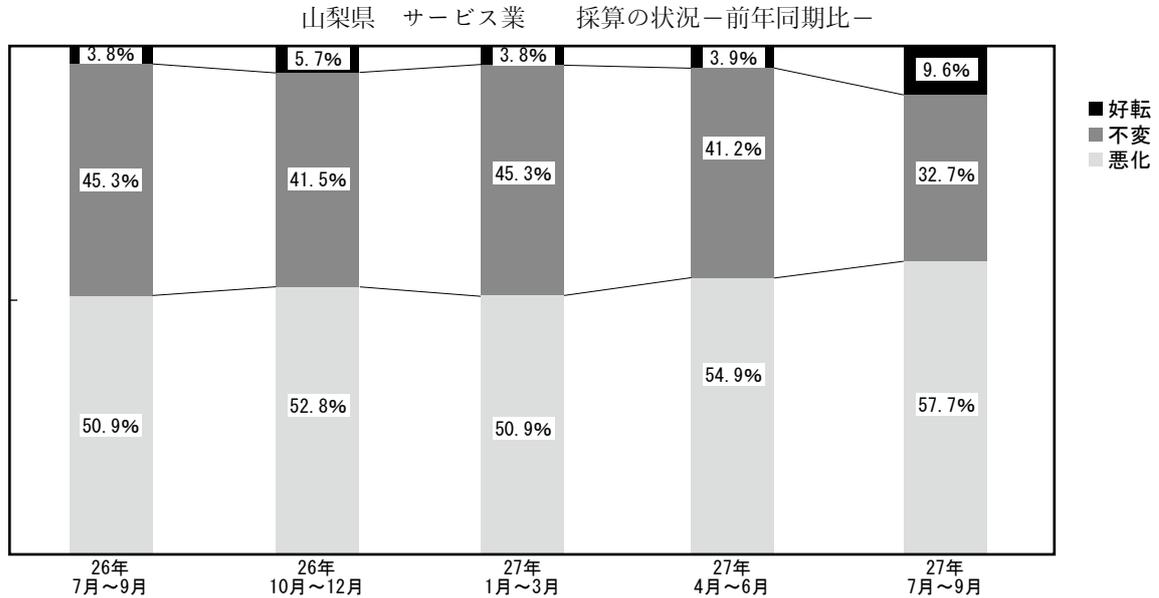


② 採算（採算DIの内容（回答企業数52社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、9.6%（5社）と増加（前期比 +3社）となっている。

「不変」は32.7%（17社）と減少（前期比 ▲4社）している一方、「悪化」は57.7%（30社）と増加（同 +2社）している。



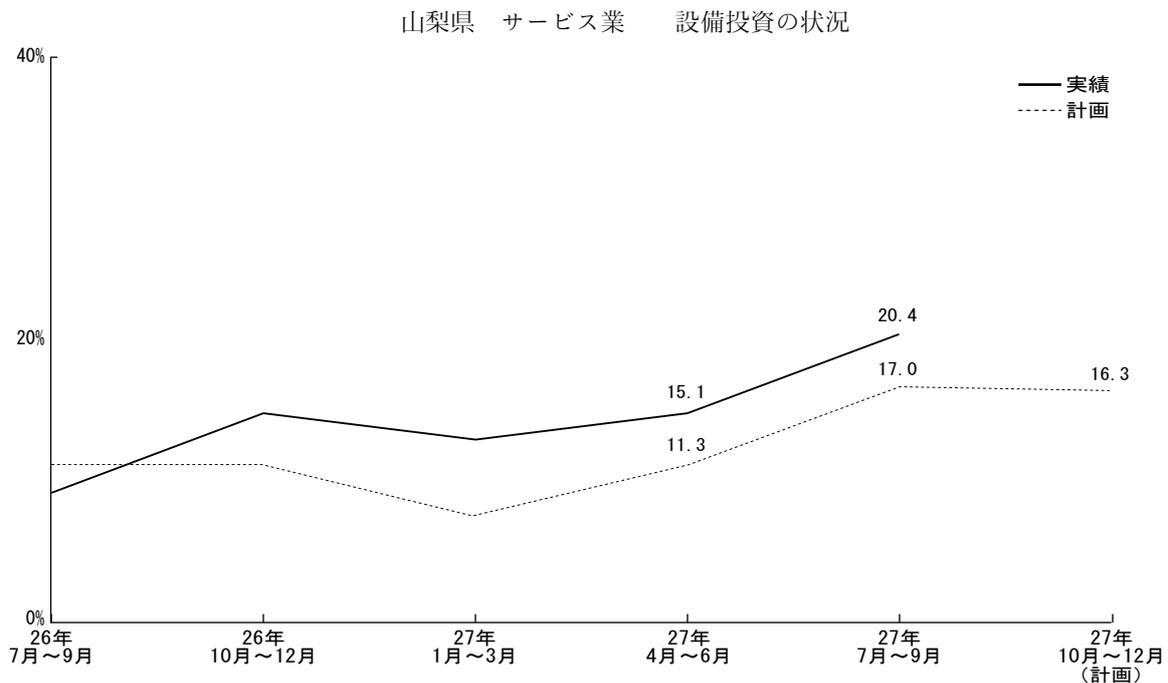
③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数53社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は20.4%（10社）であった（前期比 +5.3%）。

その設備投資の内容は、「建物」、「サービス」が3件ずつ、「車両・運搬具」、「付帯設備」、「OA機器」、「その他」が1件ずつであった。

来期の計画については、16.3%（8社）の企業が予定している。

その設備投資の内容は、「付帯施設」が4件、「サービス」が3件、「OA機器」、「その他」がそれぞれ2件、「建物」、「車両・運搬具」がそれぞれ1件になる。



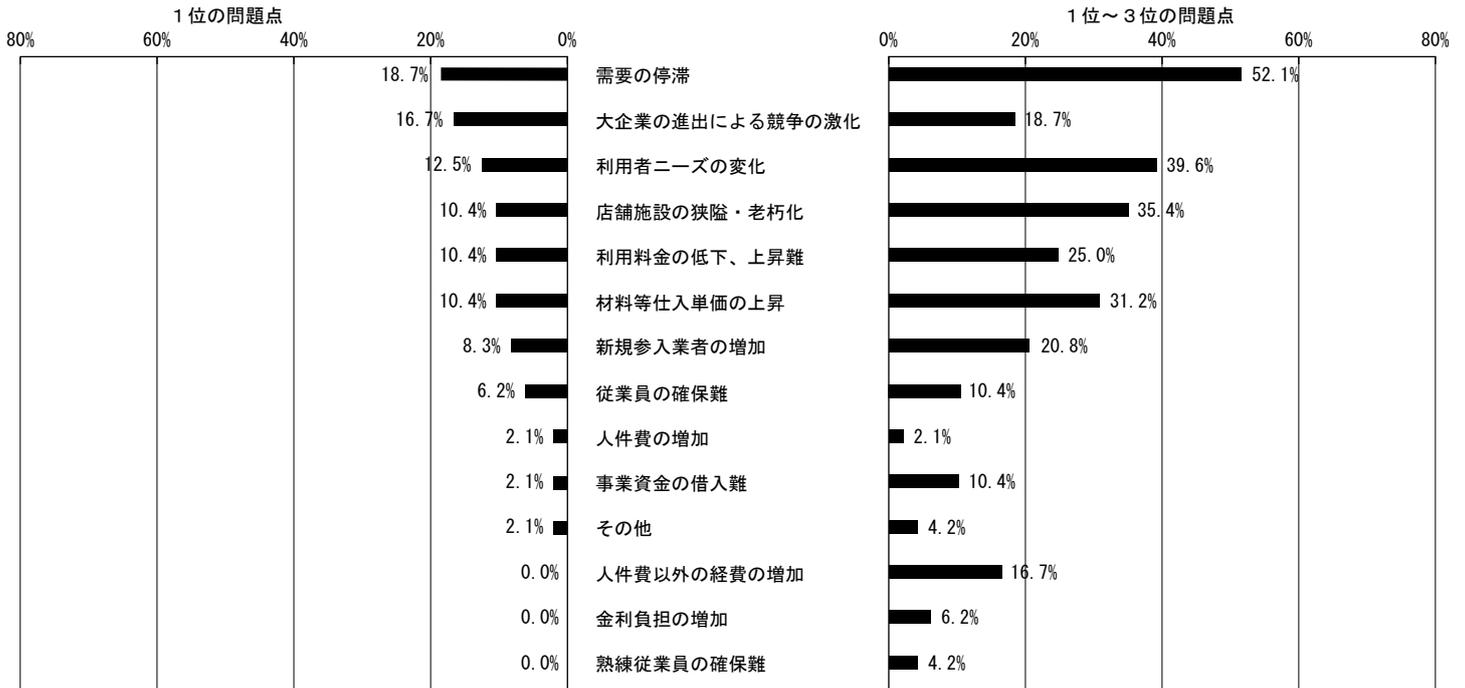
④ 経営上の問題点（回答企業数 48 社）

まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の18.7%（9社）であり、2番目に多かったのは、「大企業の進出による競争の激化」の16.7%（8社）であった。そのあと、「利用者ニーズの変化」の12.5%（6社）が続く。次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の52.1%（25社）であり、2番目に多かったのは、「利用者ニーズの変化」の39.6%（19社）であった。そのあと、「店舗施設の狭隘・老朽化」の35.4%（17社）、「材料等仕入単価の上昇」の31.2%（15社）が続く。

山梨県 サービス業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	19	36
宿泊業	8	15
運送業	2	4
自動車整備業	4	6
洗濯・理美容業	16	30
その他のサービス業	4	9
合計	53	100

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇	い	企業数	構成比(%)
2人以下	44	83.0	40	75.5
3人～5人以下	9	17.0	13	24.5
6人～10人以下	0	0.0	0	0.0
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	53	100	53	100